

2005年(平成17年)

5月11日
(水曜日)

土曜・日曜・祝日休刊

日経産業新聞

ヘルパー同行の介護旅行

ヘルパー資格を持つ添乗員を同行させる「介護旅行」事業を手がけるSPI(東京・渋谷、篠塚恭一社長)は添乗員数を大幅に増やし、事業を拡大する。東京電力が主催するヘルパー養成講座を活用、現在四百人の添乗員を二〇〇六年六月までに六百人に拡充し、要介護者がいる家族の旅行需要をつかむ。

SPI、養成講座も

同社はヘルパー二級の資格を持つ人材に旅行添乗員としての研修を実施し、「トラベルヘルパー」と呼んでいる。介護が必要な高齢者の旅行に同行して、食事や入浴などを介助する。ヘルパーはSPIと業務契約を結び、旅行ごとに仕事を請け負う。

同社の介護旅行利用客は〇四年六月期で五百人。〇五年六月期は八百人を見込む。事業拡大をにらみ、人材養成が急務

添乗員600人に拡充

になっていた。

このため、東京電力が今年六月に主催するスキルアップ講座から「トラベルヘルパー養成講座」

を受託した。講座の内容は同社が企画、三十時間で介護や旅行に関する知識など、トラベルヘルパーとしての基本技術を身に付けさせる。

講座修了後は同社のトラベルヘルパーとして契約できるようにする。

SPIは旅行会社に添乗員などを派遣する人材

派遣事業を手がけてきたが、介護保険制度がスタートした二〇〇〇年から介護旅行を本格化。二〇〇五年六月期の売上高は前のを一三%上回る二億五千万円を見込んでいる。今後も要介護高齢者が増えるにつれて、安定した需要が見込めると判断した。